

事業概要シート

施策	0402	地域間交流の推進	<<>の金額 現年度当初・補正予算、前年度繰越額の合計 ※補正予算要求時は今回の補正予算額を除く ※次年度予算要求時は次年度繰越額を除く	
事業名	姉妹都市交流事業		現状維持	3,303 千円
事業期間	昭和54年度 ~		予算額	<< 1,901 >>千円
根拠法令要綱等	伊丹市・大村市姉妹都市提携に関する協定、姉妹都市提携に関する協定書、大村市姉妹都市親善事業費補助金交付要綱		財源内訳	
			国庫支出金	千円
			県支出金	千円
			地方債	千円
			その他	千円
			一般財源	3,303 千円

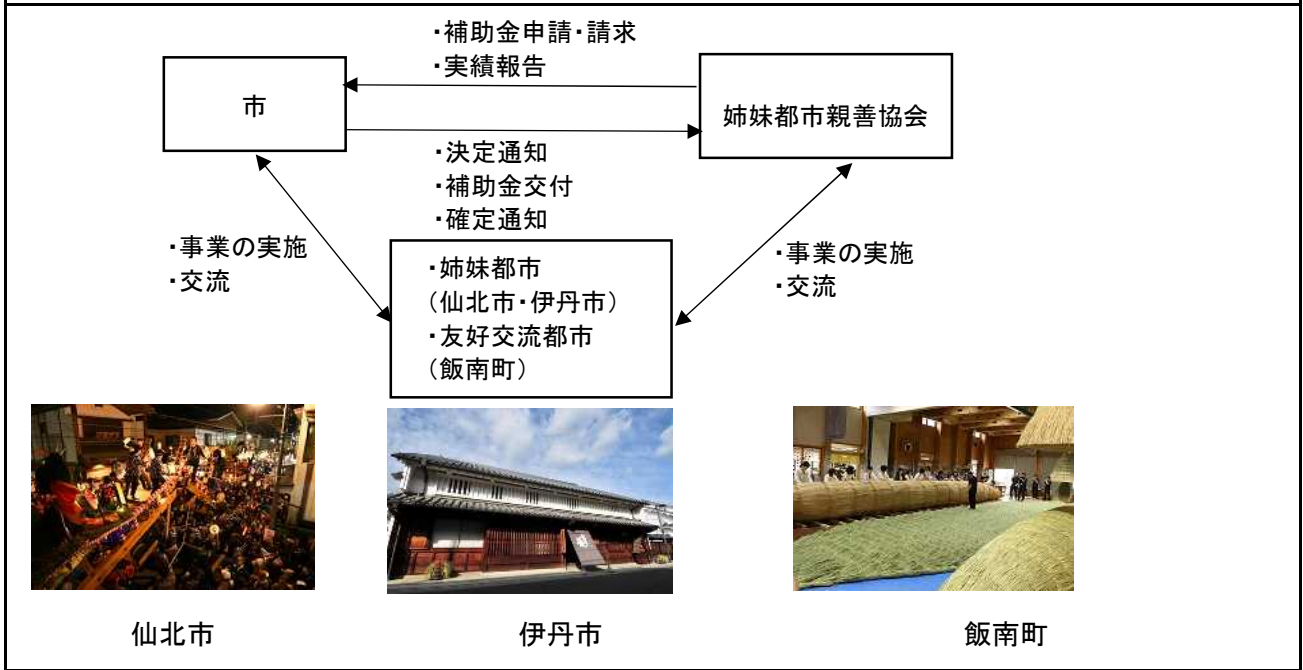
【事業の目的・概要・対象】

(目的) 姉妹都市、友好交流都市間の人的交流や経済・文化交流を活性化させる。
 (対象) 仙北市・伊丹市・飯南町及び大村市民、大村市姉妹都市親善協会

姉妹都市協定を昭和54年に仙北市(角館町)、昭和55年に伊丹市と締結した。5年毎の姉妹都市締結記念事業を市と姉妹都市親善協会の共催で実施している。また、平成27年に友好交流都市協定を締結した飯南町とは、「おおむら夏越まつり」への参加、青少年交流事業(1年おきに相互訪問)を実施し、交流を深めている。

そのほか、毎年、5月に伊丹市で開催されている「緑化フェア」に市と物産振興協会が参加し、6月に大村市で開催される「花菖蒲まつり」に仙北市、伊丹市、飯南町から物産展を出店するなど、経済交流を図っている。

令和5年度は、姉妹都市・友好交流都市物産展を開催。また、飯南町親善訪問団受入れ、大村市・飯南町青少年交流ツアー(大村市開催)等が予定されている。



【背景】

姉妹都市親善協会の会員数は減少傾向にあるが、それを補うだけの新規会員の増加は困難な状況である。姉妹都市、友好交流都市との交流を継続的に深めるため、さらに青少年等の相互交流を推進していく必要がある。また、物産振興協会等の関係団体と密な連携を図る一方、新規会員の加入促進にも努めていく。

担当課	企画政策部企画政策課	課長	三岳 和裕
担当者	中村 宏昭	問合せ先	0957-53-4111(内線103)

事業概要シート

【活動指標】

指標名		単位	R 4 (実績)	R 5 (計画)	R 6 (計画)	R 7 (計画)	R 8 (計画)
①	姉妹都市・友好交流都市交流事業への延べ参加者数	人	484	622	1,045	1,500	1,650
②							

【成果指標】

指標名		単位	R 4 (実績)	R 5 (計画)	R 6 (計画)	R 7 (計画)	R 8 (計画)
①							
②							

【予算・決算】 (千円)

事業費は当初・繰越・補正予算の合計額

年度	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	合計
事業費	1,824	2,356	1,901	3,303	3,303	3,303	15,990
国庫支出金							0
県支出金							0
地方債							0
その他							0
一般財源	1,824	2,356	1,901	3,303	3,303	3,303	15,990
人件費	2,043	1,970	1,918	1,878	1,878	1,878	11,565
職員(人)	0.27人	0.25人	0.25人	0.25人	0.25人	0.25人	1.52人
時間外勤務(h)	40h	76h	50h	30h	30h	30h	256h
会計年度任用職員(人)	0.00人	0.00人	0.00人	0.00人	0.00人	0.00人	0.00人
フルコスト	3,867	4,326	3,819	5,181	5,181	5,181	27,555

妥当性 (市の関与)	大村市姉妹都市親善協会等の民間団体における交流を推進するため、記念事業や各種交流事業への市の関与は妥当である。
有効性 (施策貢献度)	姉妹都市及び友好交流都市間の人的交流、経済・文化交流を活性化させることは、地域間交流を推進するための手段として有効であり、必要な事業である。
効率性 (コスト)	姉妹都市親善協会への補助金について、これまで見直しを図りコスト削減に努めており、報酬及び旅費も必要最小限であるため見直す余地はない。

1次評価	担当者意見のとおり
2次評価	1次評価のとおり